



卯年を迎えて

クサカ建設(株)
日下 雅彦



新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は卯年、私の生まれ年、年男です。早いものでもう50前、振り返ってみると歳とったな一、私の人生いろんな事があったな～と思い出に浸る今日この頃でもあります。

私がこの業界に入りましたのは、昭和60年、バブルの絶頂期。大学の建築学科を卒業すると創業100年以上という老舗の東証2部の中堅ゼネコンに入社しました。東京は当時非常に活気があり、業界も建設ラッシュであちこちに大きなクレーンが立つという賑やか振り。しかし、その賑やかさとは裏腹に建設現場は3Kと言われ「きつい」「きたない」「危険」の代表的な職場でもありました。当時独身寮に住んでいた私は夜遅く帰って冷たくなった夕食を電子レンジで温め、テレビを見ながら一人寂しく食事をする日々が続いていました。しかし、そんな環境の中でも心の支えとなるのが寮の先輩や同期の仲間たちでした。酒を酌み交わしながら、いろんな苦労話をしたり、若者の街に出掛けてリフレッシュしたりと楽しいこともたくさんありました。

そんな入社2年目秋のことです。「人生というのは何があるのか分かりません。」という出来事がありました。当時業界としては珍しい企業合併の話が出たのです。相手は東証1部の準大手ゼネコン。後で分かりましたが、当時会社はかなり経営が厳しい状態だったようです。そして100年以上続いた会社の歴史はあっけなく幕を閉じたのです。

合併後広島支店に配属された私は、東京本店から来た若手社員ということで注目を浴びていたようです(気のせいかも知れませんが)。合併後の安定した会社は、いろんな面で前の会社とは違っていました。給料は多い、休日も多い、残業は少い、そして職場の雰囲気も明るく感じました。東京と違い少し田舎の広島という地域性もあったかも知れませんが、そこでも先輩や後輩、仲間たちが出来、同じ建設業でもこんなに違うんだ、と本当に実感したものです。

そんな2つの建設会社を経験した私は、その後4年の修行を終え出雲に帰り会社を継ぐことになりました。

今、私たちを取り巻く環境は先行き不透明の厳しい環境です。厳しい理由を世の中や他人のせいにして努力を怠っている状況です。というより何をどうしたら良いのか分からないというのが実情ではないでしょうか？

私達のような地方の中小零細の建設会社は、みんなが他人を蹴落とし自分だけ良ければという考え方をもち会社経営をしたのでは共倒れするような気がしてなりません。協会員各社が協力し合い共に繁栄していけるような業界になれるよう、他方面へのいろんな働きかけや会社同士の連携など共存共栄して行ける道はまだ残っていると思います。「理想と現実は違～わや」と思われるかも知れませんが、理想を追い求めるパワーもなければ明るい未来はないのではないのでしょうか。いや、明るい未来が来ると私は信じたいと思います。



年男の抱負

(株)内藤組
内藤 正和



新年明けましておめでとうございます。

本年は3回目の「年男」を迎え体力、筋力は20代に比べると衰えを感じる事が多くなりました。しかし、「知ること」の楽しさ、魅力は、以前より増しているように思います。

私は高校を卒業して岐阜県の大学に入りました。そして、いずれは出雲へ帰る事を前提に、そのまま岐阜県の建設会社へ飛び込みました。その社会人としての10年間を振り返ると、愛知万博開催もあり豊田自動車も販売好調で、東海地方は山陰地方と比べるととても活気があり、日本の中でも都市部と地方とではこんなに違いがあるのかと思ったほどです。また、この間に現在の妻とも出会い結婚し、二人の子どもにも恵まれ、岐阜県での14年間は自分の人生にとって重要な時期でもあったし、岐阜県に対する愛着もあり、第二の故郷だと思っています。そして、出雲へ戻ってからもう3年が経ちましたが、県協会出雲支部青年部会を始めとする各団体へ入会することにより皆様方との出会いがあり私にとって貴重な経験をさせて頂きました。また、多くの知識も得ることが出来ました。まだまだ、自分自身の経験不足、勉強不足な面も多々あります。年齢的には、これから人生の折り返し地点を迎えようとしていますが、今後も「知ること」の楽しさや何事にも興味を持つ事を忘れず、自己研鑽に努めて社業や地域の発展に寄与したいと思っています。その為にも、健康には気を付けていきたいと思う次第です。「健康第一」という言葉があります。過去を振り返ると、ここまで大病や入院することなくやってこられた事に感謝、感謝です。今後も引き続き「健康第一」で頑張っていきたいと思っています。

さて、今年も厳しい経済環境のもとで新年が明けました。極めて当たり前の事ですが、事業が存続するためにはその事業の価値が世間に認められ、世の中の役に立つ事が前提です。しかし、その世の中は常に変化を続けています。今までは役に立っていたものが新しい技術開発で陳腐化するとか、好況時は喜ばれていたものが一旦不況になると注目されないとか、めまぐるしく様変わりしています。したがって、企業活動というものは常に世の中の変化に合わせて、自らの役立ち方を変えていくが必要だと思っています。

会社として製品やサービスで今の世の中に合わせた新しい価値を提供することも当然必須な事ですが、社員個人としても世の中に適合するよう新しい価値を創造していかなければならないと思います。これは何も新しい資格を獲得して能力を向上させるというような事だけでなく、身の回りにいくらかでも対象はあります。自らの活動を十分に吟味し、これまでに足らなかったことを一つ一つ補っていくこと、大切なことは一人ひとりの考え方や仕事への取り組み姿勢をお客様への役立ちを高めるといふ一点に集中して行動を改善する事だと思っています。そして、地域や民間を中心に活気が出てくれば近い将来我々の業界にも必ずや光明が差ししてくるのではないかと期待しております。

新年に際して「時代変化の流れに対応していく」という気概を持ち、これから先の一年一年を大切にしたいと思います。

本年もよろしくお願い致します。



安全委員会視察報告

大福工業(株)
高橋 道夫

私たち安全委員は、昨年10月21日、22日両日仙台市で行なわれた第47回全国建設業労働災害防止大会に参加しました。

また、皆様のおかげでこの大会で功績賞をいただけることとなり、ありがとうございました。私にとって十数年ぶりの仙台となり、大変ウキウキした気持ちになりました。当日は、快晴にもめぐまれ午後1時前に会場に到着、大会に参加しました。アトラクションでは「すずめ踊り」が華やかに繰り広げられました。すずめ踊りとは、仙台城の新築の宴席で城の石工を請けた人たちが、即興で披露した踊りに始まるといわれるもので、小気味よいテンポ、躍動感あふれるもので会場はいやでも盛り上がりました。開会、顕彰、講演と無事終了し、私も盾を頂きうれしさが一段と込み上げてきました。(あまりにりっぱな盾に)

その夜は大変美味しいお酒を安全委員の皆様と一緒にいただきました。(仙台なら牛タンですね)一夜明けて2日目は、安全に関する部会(コスモス・土木建築・教育・住宅)に分かれての発表会があり、悩んだ末私は安全衛生教育部会に参加しました。最初は、労働基準局の建設安全対策室長による建設業におけるこれからの安全衛生対策について講演がありました。リスクアセスメントの必要性、実施による成果など事例を取り入れた分かりやすいお話でした。次に、(株)斎藤工務所工務次長さんによる「私も出来たリスクアセスメント～作業場での一人KY～」では、危険予知の感受性を高めるために時には、家族、子供に置き換えて危険箇所を見つけ出す、何気ない現場の写真や災害事例を利用するなどの工夫が大切であることや、パワーポイントを使つての安全訓練など現場で日常行われている取り組みなどを分かりやすく説明されました。他県の業者がどのような取り組みをしているか大変参考になりました。

今回の大会は、なかなか普段聞くことの出来ない全国的なレベルでの発表や講演を聴くことが出来て私自身大変勉強になった視察でした。

最後に、皆さんがおっしゃっていたことですが、リスクアセスメントを更に充実させるために各社が研鑽すること、分会の安全パトロールでは第一線の方と遠慮なく言い合える環境作りや、危ない箇所を指摘出来るムード作りが大切であると思います。「安全は出雲から」の言葉を汚さないためにも、みんなで一緒に頑張らしましょう。ご安全に！



松島港



全国大会



仙台と言えば牛タンでしょ



「視察研修旅行」に参加して

(株)岩崎建設
岩崎 昭子

まずは、この視察研修旅行を企画・実施されました役員様、事務局の方、お世話して頂いた方々に感謝します。また、私のような若輩者が感想を寄せさせて頂く事も大変恐縮に思いましたが、お世話になった諸先輩方への御礼にと思い引き受けさせて頂きました。

この度の視察研修旅行は東アジア地域のハブ港として、再開発事業による施設整備が進められている韓国「釜山」を視察目的に、昨年11月5日～7日に企画されました。私は社長の命を受け、この建設業協会出雲支部視察研修に参加させて頂きました。出発の日の朝、1人駐車場に車を止め、スーツケースを引き、心細くバスに乗り込んだ事を思い出します。参加者名簿を頂きましたが、数名の方しか分からずに初めての参加で内心ドキドキ。女性の参加は、事務局の方2名・大社より1名と私の4名のみでした。ますます緊張～バスにて米子へ。米子空港では、ミーティング室にて挨拶、旅行の説明、1人1人の自己紹介まで…事細やかなミーティングが行われました。

そして、いよいよ韓国へ！✈

仁川空港に着き、バスでソウル駅に向かい、そこから私は初めて海外で新幹線(KTX)に乗り込みました。車内では、会員の参加女性が2名という事で土江様にはとても気に懸けて頂き、嬉しかったです。お陰で楽しい2時間半後、釜山に到着。楽しみの夕食は、海鮮料理。夕食の席では皆さんともお話ができ、少しずつ緊張もほぐれていきました。(少々ほぐれすぎた感も…?) 海鮮料理もマッコリも美味しく楽しく頂き、ホテルに向かいました。その後も数人で、釜山の街の散歩(チヂミ屋・屋台)をして楽しい夜を過ごしました。🚅🍷

翌日は、いよいよ釜山港建設現場視察。早朝よりビル屋上展望台にて下を見下ろすと、広大なスケールの埋立現場が広がり、完成には相当な年月を費やしそうな巨大さに圧倒され、驚かされました。



釜山港



龍頭山公園

いつか完成したこのハブ港を利用して、同じ地に立ち、見渡したいなと強く思いました。その後、釜山市内観光をし、再び新幹線に乗りソウルへ。

ソウルでは、免税店にて目の保養をした後、次のスケジュールが押していて慌ててバスに乗り込みました。さて、なかなかバスが出発しません。車内がざわざわ…予定の時間を5分、10分…なんと〇〇社長が行方不明!! 免税店で館内放送をしてもらい、ガイドさんは真っ青で探し回り、皆さんもガヤガヤ…突然車内で本人の声が! 「何があった?」と。「は〜あ??」車内の視点は〇〇社長に集中! 点呼ミスや席替えが起こした事件でした。皆さん歓声が沸き起こり拍手喝采。笑い声で満たされ、この出来事は〜《〇〇社長行方不明事件》〜と名付けられました。

それから急いで夕食へ。カルビや韓国料理をお腹いっぱい食べ、飲み、盛り上がり、盛り上がった夕食を済ませ、ホテルへ帰りました。折角の韓国、私はエステに行かない手はないと、韓国式サウナ・ヨモギ蒸・垢すり・マッサージ・エステの約2時間コースを満喫し、お店専属の現地の運転手さんと15分くらいのホテル迄の道のりをボディーランゲージとお互いの片言の韓国語・日本語で楽しいひとときを過ごしました。2人で日本の歌を歌ったりして…部屋へ帰ったのは深夜12時をとくに回っていました。翌日は、お土産を買い仁川空港より無事米子空港へ帰ってきました。行く時には心細くバスに乗り込んだ建設会館の駐車場へ夕方5時頃着き、皆様に御礼とお別れのあ

いさつを交わし帰宅しました。

今回の視察研修旅行に初めて参加させて頂けた事に心から感謝いたしますと共に、皆様にお会いできました事がとても嬉しく、いろいろな事を学習でき、楽しく過ごさせていただきました。

今後も皆様がお元気で、多方面へ御活躍されることをお祈りいたしております。

本当にありがとうございました。



焼肉カルビ おいしかったです



チャガルチ市場



編 集 後 記

年末に2010年新語流行語大賞の発表があり、年間大賞には「ゲゲゲの」が受賞しました。この言葉は、去年は確かに良く聞いたフレーズでNHKの朝の連続ドラマや映画などまさに、「ゲゲゲの」が象徴する言葉であったように感じます。実際にお隣の鳥取県境港市には年間約360万人の方が訪れるほどで、「ゲゲゲの鬼太郎」の魅力を最大限に発揮して、まちづくりを展開されています。同じ山陰の鳥根県民としても大変嬉しく感じるとともに、羨ましく思います。しかし、出雲にも沢山の魅力的な名所や、そして全国的に認知されている「出雲」ブランドがあるにも関わらず、まだ上手く活用できていないのが非常に残念に感じます。

さて、去年は私達を取り巻く環境もまさに、新語流行語大賞の言葉通り「ゲゲゲの」がぴったり当てはまる年であったように感じます。

まず一番は政治の問題です。政権交代から一年以上が経過しましたが、何一つ変わらないことに、国民は発足当初の期待感から絶望感へと変わり、政治への関心が薄れています。また12月閉会した臨時国会においても、尖閣諸島など山積みになっている問題もありながら、法案成立率は4割を切るという低調さでした。国民の生活の現状を真っ先に考えるべきはずが、政権維持の為の国会であったように感じてしまいます。これでは国民の生活はどうなるのでしょうか? 不安が募るばかりです。そして以前より声高に叫んでいた埋蔵金はおろかさらに借金が膨れ上がり、事業仕分けはしたものの、パフォーマンスとしか思えないような事では……。さらに来年度の予算ベースでは、本年度よりもさらに公共事業費10パーセントカットと本当に「ゲゲゲの」と言いたくなるような事ばかりした。

次は出雲市の合併問題です。ようやく決着はついたものの、後味の悪い結果でした。このことで、どうこう言うつもりは全くありませんが、もう少しスムーズに行えなかったものかと感じます。出雲市民としては、少し「ゲゲゲ」と感じてしまいます。

さて話は変わりますが、去年歴史上の人物で注目を浴びた人がいます。それは坂本龍馬です。NHKの大河ドラマでも放映され、全国各地で龍馬をモチーフとしたまちづくりが展開されました。坂本龍馬はこの国を「何とかせんといかん」と立ち上がり、今の日本の礎を築いた人物です。そのような魅力が国民に愛される理由ではないのでしょうか。では、現代版の坂本龍馬は誰でしょうか? 確か政治家の方で、自分は現代の坂本龍馬と語った方がいらっしゃいましたが、今その影は薄く何をされているのでしょうか。今まさに日本に必要なのは、現代版坂本龍馬ではないのでしょうか。「この国を何とかせんといかん」そんな志が高い、強いリーダーの存在が待ち遠しく思います。